

## WG概要

現在振興しつつある多様なクラウドサービスの分類・用語の定義等の整理をしつつ、我が国ならではの新たなグローバル社会基盤を実現すべく、将来的なクラウドサービスのあり方・方向性等について多くの意見を求め、日本のICT業界が取り組むべき次世代クラウドサービスの将来ビジョンを描く。

## メンバー

ASPIC(提案者)、事務局

JCCメンバー(上記関係団体・機関、及びASP・SaaS/PaaS/IaaSそれぞれの関連企業等)

## 主な検討事項等

WGにおける論議に加え、コンソーシアムメンバー、関係団体等へのアンケート調査等を通じた幅広い意見収集により、我が国ならではの次世代クラウドサービスのあり方、取り組み戦略の方向性等の検討を行う。

- (1) 現在振興しつつある多様なクラウドサービスやクラウド技術のトレンド、及び事例の収集・分析  
海外及び国内の先進的動向、クラウドサービスの提供／利活用事例に関する情報収集、台頭しつつあるクラウド技術に関する調査・分析を行い、クラウドサービス体系の現状に係る共通認識を得る。
- (2) 我が国ならではの次世代クラウドサービスのあり方、取り組み戦略の方向性等の具体化  
我が国のICT業界の特性を活かしたグローバル潮流を生み出すべく、次世代クラウドサービスのあり方、実現に向けた取り組み戦略等に関する幅広い意見収集・整理、将来ビジョンに係る要件整理・具体化検討を行う。
- (3) 上記検討を踏まえ、実行に移すべきアイデアが生じれば、実際に実行に移す

# 次世代クラウドサービス検討WG（2/4）

## WGでの検討手順(概略)

タイミング	フェーズ	検討手順
3月	第1回WG	<ul style="list-style-type: none"><li>● 次世代クラウドサービスに関わる重要動向と本WGでのフォーカス・テーマ、成果イメージ等について討議</li><li>● 次回発表会社を決め、(1)(2)に関わるアンケート調査も実施</li></ul>
4月～5月	WGを2回程度開催	<ul style="list-style-type: none"><li>● 選定したメンバー会社の発表とアンケート調査結果に基づき、(1)のクラウドサービスの現状分析、次世代サービス要件等について討議</li><li>● 中間とりまとめに向け(2)の次世代クラウドサービスのあり方に関する論議、意見収集にも留意</li></ul>
5月～6月	中間とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 上記のフォーカス・テーマの検討に基づき、規制緩和など政策支援として必要な事項について、まとめ提言していく</li></ul>
7月～10月	WGを4回程度開催	<ul style="list-style-type: none"><li>● 検討事項(1)に関し、深堀・調査、とりまとめについてWG討議</li><li>● 検討事項(2)に関し、深堀・調査ととりまとめについてWG討議</li><li>● 検討事項(3)に関し、政策に結び付け得る「実行に移すべきアイデア(テーマ)」を抽出し、現状・課題・解決の方向という形でまとめていく</li></ul>
11月～12月	年度とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 検討事項(1)(2)と、提言に係る検討事項(3)についてとりまとめる</li><li>● 残された課題を整理し、今後のWG活動の検討事項を整理する</li></ul>

## WGのアウトプット(イメージ)

### 内容的には

- 前段においては、主に(1)の成果を使って、次世代クラウドとされる主要なトレンドや台頭しつつある技術について国内外で収集された事例を紹介、解説する
- 中段は主に(2)で、これらの中から日本が特に強みを持ち、注力していくべき分野を選定し、それについて、現在の取組み状況を分析し、クラウド普及に向けた課題を抽出する
  - －例えば、社会インフラ高度化のためのスマートクラウド基盤技術の動向や、適用案件への対応状況を調べる
  - －案件への対応における技術的課題、法規制上の課題を抽出すると共に、クラウドベンダーが現状、案件に十分入っていない場合、その原因なども探っていく
- 後段の(3)では、上記の課題や原因などを分析し、解決策を導き出すと共に、実現に向けて政府が取るべき支援策を提言する

### 提出に当たっては

- 5月または6月に中間とりまとめを提出する。政策支援等を求められる最低限のレベルを確保する程度の粗いものを想定(分量は数ページ～10ページ程度)
- 11月または12月に提出する第1事業年度の最終的とりまとめ報告書は、前・中・後段とされた内容の全てを網羅した報告書として提出(量的には本編30ページ程度)

## WGの体制、参加要件、連絡窓口

### WGの体制について

- リーダー1名（ASPIC小田島理事(案)）、サブリーダー2名で、検討中
- 必要性やメンバーからの提案に応じ、有識者を入れることも検討
- 15～20社以内、20～30名以内のメンバー数で実施したい

### 参加要件について（下記のいずれかに当てはまること）

- 自社並びに我が国の先端的クラウドの動向、推進施策などに明るく、情報提供が可能
- 欧米、韓国など諸外国の先端的クラウドの動向、推進施策などに明るく、情報提供が可能
- 上記動向、施策などに強い興味をもち、我が国の政策に反映させたいとの意欲のあること
- WG活動における積極的な発言、書記作業、報告書作成作業などに貢献できること

### 連絡窓口（注1）

特定非営利活動法人 ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム（注2）

事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-3-1 たつみビル2F

TEL:03-6662-6591 / FAX:03-6662-6347 / E-mail: office/atmark/aspicjapan.org

<http://www.aspicjapan.org>

注1: 上記窓口は本WGの活動・検討内容に関する問合せにのみ対応しています。本WGへの参加申込みはJCC事務局が窓口となり、

2011年1月下旬より受け付けますので、今しばらくお待ち下さい。

注2: 旧法人名称「ASP・SaaSインダストリ・コンソーシアム」から変更申請中

注3: 迷惑メール対策のため、「@」を「/atmark/」と表示しております。送信の際には、「/atmark/」を「@」に置き換えてください。